

【R7年度】重点目標の取組・概要（学童保育の待機児童対策[放課後児童健全育成事業]）

担当課（内線）	子ども家庭応援部子育て支援課（内線2776）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う

現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・岸和田市内23校区の小学校にて実施しているチビッコホーム44か所（放課後児童クラブ）において、一部校区にて、待機児童が発生している。） ・待機児童解消のための空き教室の確保が課題である。（今後、チビッコホーム利用者が増加し、待機児童が発生する可能性がある。） 	

R7年度の事業費（内訳）	
<ul style="list-style-type: none"> ・チビッコホームに係る経費 431,674千円 （うち人件費 393,147千円） （うち事業費 38,527千円） 	
※特定財源：112,647千円（市負担金：放課後児童健全育成事業負担金） 1,330千円（市協力金：放課後児童健全育成事業協力金） 105,899千円（国交付金：子ども子育て支援交付金） 105,899千円（府交付金：子ども子育て支援交付金）	

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）	
【中期的(4～5年後)にめざす成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童が発生している校区において、空き教室の確保を行い待機児童を解消する。 	
【成果に向けての各年度の進め方】 <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童解消のために、小学校や教育委員会と連携を図りながら、空き教室の確保を行う。また、待機児童が発生している校区においては待機児童対策として、夏期臨時チビッコホームを開設する。 	
【R7年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 <ul style="list-style-type: none"> ・R7年度は、小学校23校で44箇所のチビッコホームを開設。また、夏期臨時チビッコホームを6箇所で開催予定。 ・令和6年度に待機児童が発生している大宮、東光チビッコホームについては、令和7年度に小学校の空き状況を確認し、チビッコホーム開設の可否について協議する。 	

R8年度以降の想定事業費（ランニング経費）	
<ul style="list-style-type: none"> ・チビッコホームに係る経費 	
(R8) 432,088千円	(R13) 443,568千円
(R9) 435,727千円	(R14) 444,032千円
(R10) 438,652千円	(R15) 444,808千円
(R11) 441,019千円	(R16) 445,842千円
(R12) 442,380千円	

取組の進捗・成果を測る指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・チビッコホーム待機児童数 39人（2023）➡0人（2026） 	

成果・指標が未達成の場合の取扱い	
※必ず縮小・廃止時期を記載すること	
<ul style="list-style-type: none"> ・（R8）前年度を踏まえ改善 ・（R9）前年度を踏まえ改善 ・（R10）前年度を踏まえ改善 ・（R11）前年度を踏まえ改善 	

【R7年度】重点目標の取組・ロジックモデル（学童保育の待機児童対策[放課後児童健全育成事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



財源	他団体の状況	その他（行政サービスとしての適正性について など）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 待機児童が発生している校区において、空き教室の確保を行い待機児童を解消する。

■ R7年度において実施・実現できたこと

- 待機児童が発生している6校区（大宮・旭・東光・城東・太田・朝陽）においては待機児童対策として、夏期臨時チビッコホームを開設することができた。

■ R7年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- 小学校23校で44箇所の子ビッコホームを開設。
- 夏期臨時チビッコホームを6箇所で開催。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R7年度実績値
○	待機児童数	人	39（2023）	0（2026）	132
○	待機児童が発生している小学校区数	校区	4（2023）	0（2026）	11
○	学童指導員確保数	人	72（2023）	88（2026）	77（必要数84）
-	利用者満足度	-	-	-	-

■ R7年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 実施できたこと
待機児童が発生している6校区（大宮・旭・東光・城東・太田・朝陽）においては待機児童対策として、夏期臨時チビッコホームを開設することができた。
- ・ 実施できなかったこと
待機児童が発生している校区において、空き教室の確保を行い、待機児童を解消することができなかった。



■ 課題分析

- ・ 待機児童解消のために、小学校や教育委員会と連携を図りながら、空き教室の確保を行うこととしているが、小学校側としては、支援学級数の増加によって教室の確保が必要であるため、チビッコホームの増設が難しい状況である。



■ ロジックモデルの振り返り

- ・ ロジックモデルにおいて利用者満足度の指標を掲げているが、実際に数値として表すことが難しいため、結果の検証をすることが困難であり、見直しが必要である。



■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 待機児童解消については、引き続き小学校や教育委員会施設管理主管課と連携を図りながら、空き教室の確保を行う必要がある。